

10代の妊娠のリスク・ファクター……………	1	今月のブックガイド……………	9
北丸雄二のニューヨークレポート④……………	7	JASEインフォメーション……………	10
「ありのままのわたしを生きる」ために④……………	8		

10代の妊娠のリスク・ファクター

～イギリスの総合政策プロジェクト「10代の妊娠戦略」から～

専修大学法学部教授 広瀬 裕子

1 地域の貧困度と相関する10代の妊娠問題

イギリス（イングランド）の10代の妊娠率はきわめて高い。ヨーロッパではずっとトップであり続けている。次ページ図1はヨーロッパ各国の20歳未満の女性1000人当たりの妊娠率の推移だが、他のヨーロッパ諸国が1980年代から10代の出産を低下させている一方で、イギリス（UK）では高止まりが続いている。

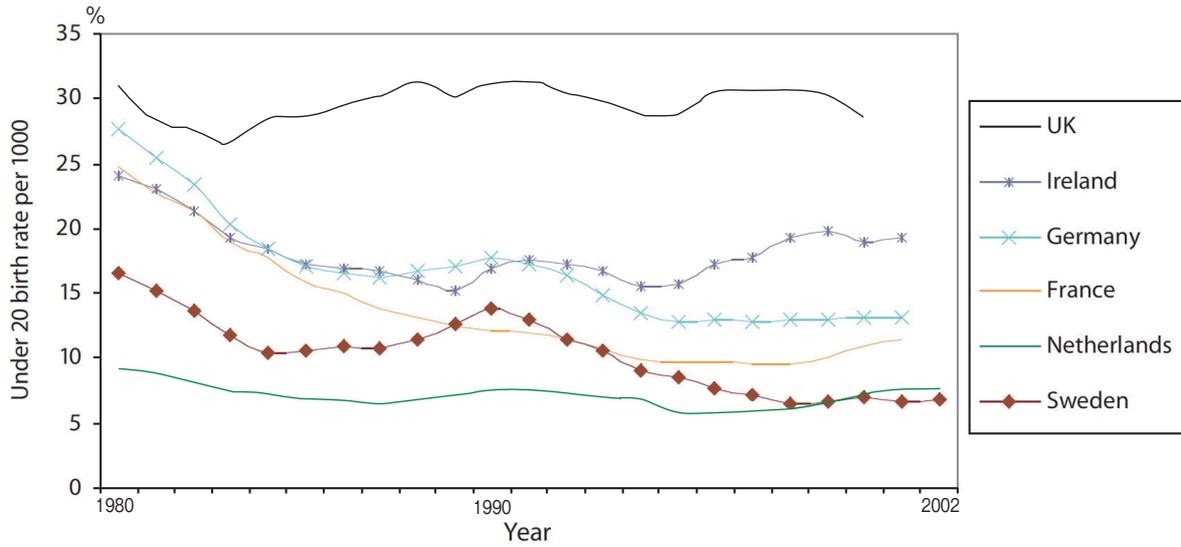
そうした状況をなんとかしようとして、イギリス政府は本腰を入れて10代の妊娠問題に取り組み始めた。⁽¹⁾1999年に出された政府の調査報告書『10代の妊娠』は、初めてこの問題がどのような社会問題であるのかを明らかにした。少女の妊娠はそれぞれの地域の貧困度と高い相関をもつ、社会的排除の問題であることをこの報告書は明らかにしている。

報告書が明らかにした事実は衝撃的だった。10代

の妊娠は、妊娠した少女たちの貧困問題や、彼女たちの教育の欠如の問題につながることは容易に想像ができ、さらには、生まれてくる子どもの劣悪な生育環境の問題でもあり、時には親子ともどもに、ドラッグその他の犯罪とつながっていることも、予想できた。しかし、そうした展開以上に目を引くのは、10代の妊娠の出現には、否定し難いほど明瞭に地域差・階層差がみられたことだ。

次ページ図2と図3を比較してほしい。図2は、1997年の18歳未満の妊娠率の上位10%とその次の10%の地域を示したものだ。そして図3は、1998年の、貧困率の高い上位44の地域を示したものだ。両者がほとんど一致していることがわかる。つまり、10代の妊娠の多い地域はほとんど例外なく貧困地域だということだ。同様にp.3の図4は、各地方当局（＝地方自治体）を貧困度によって10に分類し、それぞれの分類に属する地域での18歳未満の妊娠率の平均を示したものだが、貧困度が高くなるにしたがって

図1 1980年から2002年までのヨーロッパ各国における20歳未満の出産率（1000人当たり）

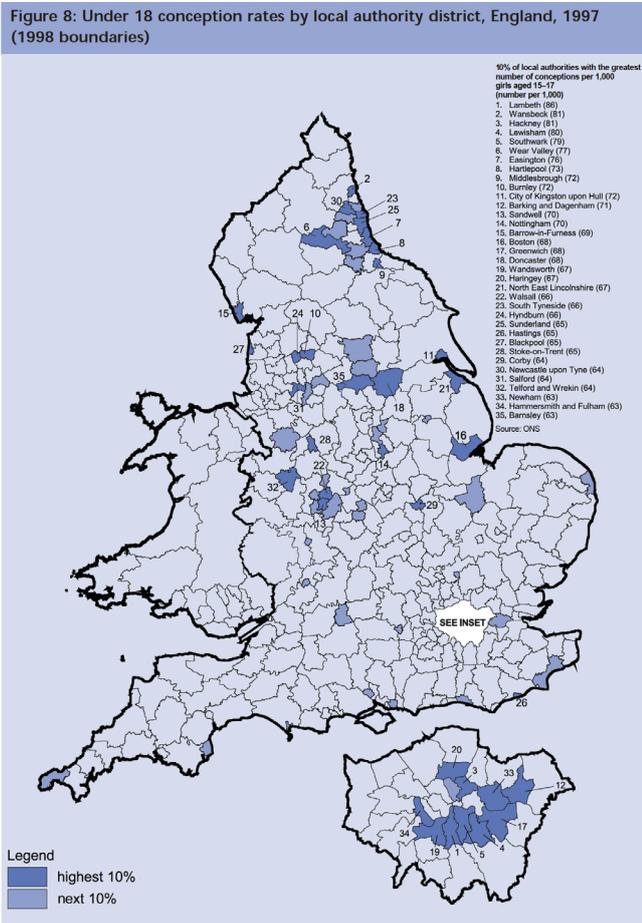


Source: Eurostat 2006

Note: Due to differences in collecting and recording data on conceptions, under-20 birth sites are usually used for international comparisons.

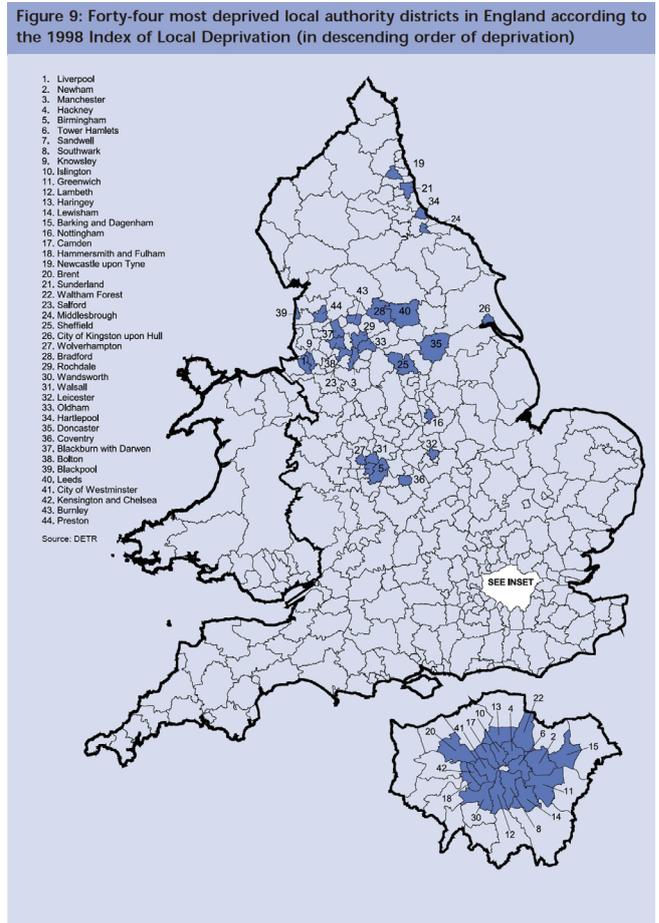
(政府報告書『10代の妊娠 次のステップ⁽²⁾ Teenage Pregnancy Next Step』(2006) に掲載されたものから引用)

図2 地域別18歳未満の妊娠率 1997年



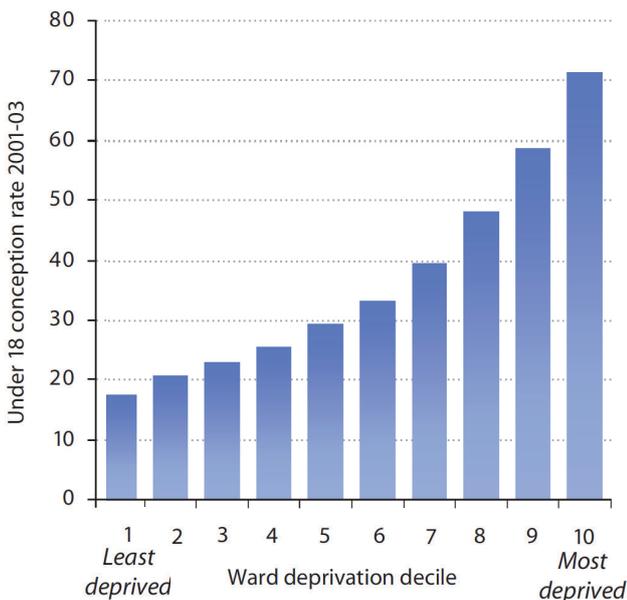
Social Exclusion Unit 『10代の妊娠』1999より

図3 貧困率上位44地域 1998年



Social Exclusion Unit 『10代の妊娠』1999より

図4 イングランドにおける貧困度10分位別18歳未満の妊娠率、2001～2003年



Sources: ONS, TPU, ODPM Deprivation Index 2004

Notes: Includes estimated rates for wards with suppressed data

(『10代の妊娠 次のステップ』(2006)より)

10代の妊娠率が増えていることがよくわかる。つまり、10代の妊娠の多い地域は貧困地域だというだけでなく、貧困度が高ければ高いほど10代の妊娠が多いということだ。

地域差、階層差の特徴についてより詳細にみると、10代で母親になる少女は、非熟練労働者階層出身が専門職階層出身の10倍になっている。また、学校教育を修了資格なしで終える者の割合が、全国平均は6.6%であるのに対して10代で出産した少女の場合には40%になっていた。地域的には、黒人労働者の割合の高いロンドン中心部、イングランド北部や中部の工業地帯など、貧困度の高い地域に例外なく少女の妊娠は高い割合でみられた。また地域特性でみると、「湾岸産業地区」は「最繁栄地区」の4倍以上の高い10代の出産割合を示していた。

10代の妊娠問題は、個人の行動選択の問題というよりは、明らかに社会問題の様相を呈しているといってよい。10代の妊娠にはそれを引き起こすリスク・ファクターがあるらしいということでもある。従来は、保守派が自由化政策を批判し、進歩派が性行動の自由を主張する構図でこの問題が取り上げられることが多かったが、そうした対立枠で済むような問題ではなくなっているということだ。

実態を明らかにした報告書『10代の妊娠』は、同

時に、10年計画で10代の妊娠率を半減（1998年を基準）させるプロジェクトを提案した。目指したことは2つ。リスクグループに重点を置いて10代の妊娠を予防することと、10代で親になった若者たちを多面的に支援することだ。この2面アプローチを国家規模でしかも総合的な政策として実施しようという「10代の妊娠戦略」プロジェクトが始まった。

2 10代の妊娠につながるリスク・ファクター

10代の妊娠につながりやすいファクターは、いったいどのようなものなのだろう。プロジェクトの中間報告でもある『10代の妊娠 2010年への戦略の加速⁽³⁾』(2006)は、10代の妊娠につながりやすいリスク・ファクターの特徴を丁寧に整理している。危険行為、教育関連要素、家族環境要素の3つにまとめて以下のようなファクターが紹介されている。

(1) 10代の妊娠の背景にみえる6つの危険行為

①性行動の早期開始

性行動の開始年齢が早いと10代の妊娠率が高くなる傾向がある。16歳未満で性行動を開始した少女は、16歳以上で開始した少女と比較して10代での妊娠しやすさが3倍になっている。

ちなみに、性行動の開始時期は他の要素とも関連していて、イギリスでは、義務教育を終える16歳で全国統一の修了資格試験を受けることになっているのだが、学校教育の修了資格を何も取らないで16歳で学校教育を終える少年少女たちをみると、少年は60%が、少女は47%が16歳未満で性交を経験している。一方、何らかの学校教育修了資格をとって17歳以上で学校教育を終えた少年少女たちは、男女ともにその割合は20%だ。また、早期に性行動を開始する若者は、特定のエスニックグループに多くみられることも指摘されている。

②避妊をしない性行為

避妊行動が不十分であることが望まない妊娠に直結することはいうまでもないが、避妊行動には教育背景やエスニシティで違いがみられるようである。

16歳で、学校教育の修了資格を何も取らないで学校教育を終える少年は、初めての性交時にその約4分

の1が避妊をしておらず、同じく少女はその3分の1が最初の性交時に避妊をしていなかった。一方17歳以上で何らかの修了資格を得て学校教育を終えた者の場合は、最初の性交時に避妊をしなかったのは少年が6%、少女が8%であった。

エスニシティ別では、ロンドンの16～18歳を対象にした避妊実行調査データでは、最初の性交時に避妊をしなかったのは黒人アフリカ系男子(32%)、黒人アフリカ系女子(24%)、黒人カリブ系男子(23%)で高い割合が報告されている。

③精神障害・行為障害や犯罪関与

望まない妊娠が精神障害や行為障害に関連があることが各種研究で指摘されている。若い女性の行為障害に関する研究では、行為障害をもつ女性の3分の1が17歳以前に妊娠していることが報告されている。また、実際に犯罪に関与した少年少女は、そうでない少年少女に比較して10代で親になる傾向が2倍となっている。

④アルコールと薬物不正使用

アルコールと薬物が10代の妊娠の危険度を増加させることも指摘されている。ロンドン南部の10代の若者を対象とした調査では、喫煙常習、飲酒、薬物使用は男女ともに16歳未満の性行為開始を助長しているとされ、またマンチェスターのロシデュールの調査では、若い白人女性の20%が、飲酒が原因で自分が思っていた以上に性的行為が進展したとしている。他の10代の若者研究でも、飲酒して性行為をした場合に避妊実行が低くなりがちであること、また飲酒して行った性行為は、性行為を行ったことそれ自体を後になって後悔しやすいことが明らかにされている。

⑤10代で母になった場合

一度10代で母親になると、10代のうちに2人目以降の子どもをもつ傾向にあることがわかっている。18歳未満で出産した少女の約20%が10代のうちに2回目かそれ以上の出産を経験している。

⑥反復中絶の傾向

18歳未満で中絶を経験した少女の7.5%は、以前にも中絶か妊娠を経験していることが多い。ロンドンだけみると、この割合は12%に上っている。

(2) 10代の妊娠と教育関連要素

危険行為の箇所でも触れたが、学校教育の受け方が

10代の妊娠傾向と強い関係をもっている。

①学業成績が低い場合

学業成績が低い場合(=義務教育修了時の統一修了試験の成績が悪くまた合格科目数が少ない場合)に、10代の妊娠の可能性が高くなっている。学業成績が低い場合は経済的貧困を伴うことが多く、10代の妊娠につながるのには貧困環境の影響なのか教育環境の影響なのか判断しにくいところがある。しかし、貧困の影響を割り引いてみても、やはり、学業成績の高低が10代の妊娠に影響していることがわかっている。

例えば貧困地域で学業成績が低い場合と、貧困地域で学業成績が比較的よい場合を比べると、学業成績が低い場合は18歳未満(15～17歳)の妊娠率(1000人当たり)が平均80%で、そうでない場合は40%である。つまり、学業成績が低い場合は、10代の妊娠率が2倍になっている。

②学校からの離脱

10代で母親になった少女たちは、妊娠に先行して学校からの離脱傾向にあることが観察されている。妊娠時点でみると、半分以上の少女たちは学校にあまり通っていなかった。学校から距離をとる「学校嫌い」という要素も、かなり強い程度で10代の妊娠につながる影響をもっているということだ。

学校の出席具合のほうからみると、出席率が悪い場合にやはり10代の妊娠率が高くなる傾向がある。貧困度が高い上位20%の地方当局をみると、授業さぼりが8%以上報告されている地域では、8%以下の地域より18歳未満の妊娠率が平均して30%高くなっている。

③16歳で学業資格なしに学校教育を終える場合

10代で母親になった少女たちは、その40%が統一修了試験の修了資格を何も取得しないで学校教育を終えている。逆に言うと、16歳で修了資格なしで学校教育を終える少女のうち、29%が18歳未満で出産しており、12%は中絶している。一方17歳以上で学校教育を終えている少女の場合は、それぞれ1%と4%である。

義務教育のみで学校教育を終えるケースの場合には、16歳未満での性交行動が始まっている場合が多く、最初の性交時に避妊をしていないことも多くなっている。

(3) 10代の妊娠の背景にみられる家族環境の特徴

10代で親になった青少年たちの家庭環境の特徴は次のようなものだ。

① 保護施設生活

保護施設で暮らしたことがある子どもは、4分の1が20歳までに親になっていることがわかっている。そのうちの40%が少女だが、保護生活を送った少女が18歳未満で母親になる傾向は、イングランド全体のすべての18歳未満の少女が母親になる傾向の3倍になっている。

② 10代の母親の娘である場合

10代で子どもを産むと、その子どもも将来10代で子どもを産むことが多い。イギリスの1970年出生コーホートデータベースをもとにした調査は、10代の母親から生まれた娘は、かなりの高い確率で10代の母親になっていることを明らかにしている。

③ エスニシティ

2001年国勢調査によると、19歳未満で出産した母親の割合をエスニシティ別に見てみると、「白人と黒人カリブ系の混血」、「カリブ系以外の黒人」、「黒人カリブ系」のカテゴリーできわめて高率になっている。「白人」もやはり高い値を示している。一方アジア系ではどのエスニシティも値は低い。

これは、エスニシティによる性行動の傾向の違いが

10代の妊娠率に反映しているからだと思われる。東ロンドンの若者調査で、16歳未満で初交を経験した者の割合は、黒人カリブ系男子できわめて高く56%、次いで黒人アフリカ系男子が30%、白人男子が28%、インドおよびパキスタン系男子は11%となっている。女子では、16歳未満の性交経験は、白人と黒人カリブ系がどちらも30%、黒人アフリカ系が12%、インドおよびパキスタン系が3%以下となっている。

エスニシティによって、避妊を実行するかどうかにも違いがみられることも先に触れた。

④ 親からの期待度

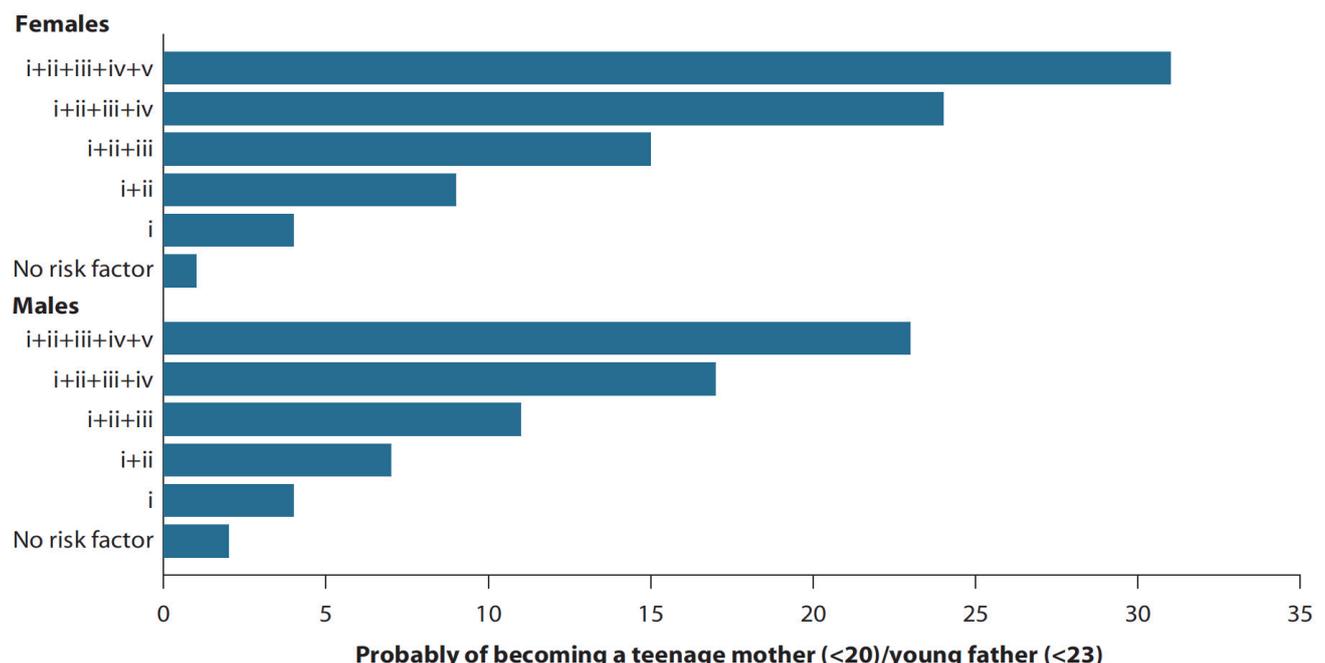
親からの期待度の違いも10代の妊娠の割合に影響しているとされる。少女が10歳の時の母親からの期待度が、その少女が将来10代で母親になるかどうかを予測するとき重要な指標として使われる。期待度が低い場合には、10代で母親になる傾向が高い。

(4) 相乗によるリスクの増加

10代の妊娠につながるリスク・ファクターは、単体で要素となるだけでなく、複数の要素が重なる場合が少なくない。そして、複数の要素が重なる場合にはリスクの度合いが増加することがわかっている。

サザンプトン大学のグループは、10代の妊娠につながる危険因子を5つ設定して、それらがどのよう

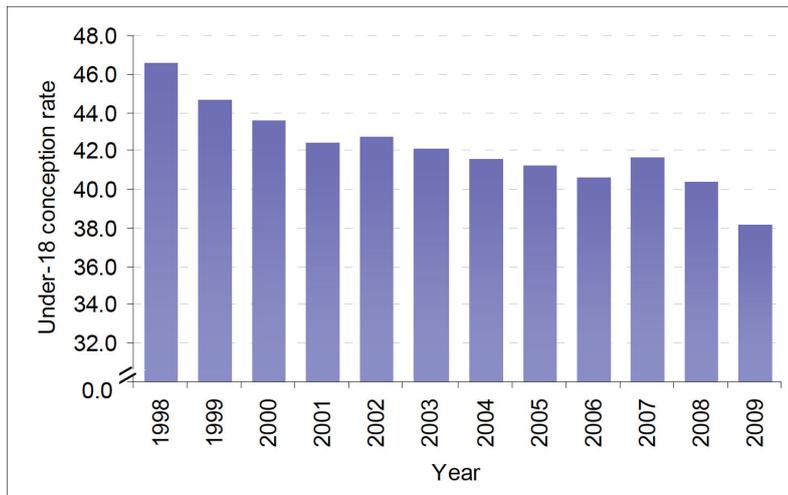
図5 10代の母 (<20) と若い父 (<23) になる可能性



Source: Analysis of 1970 British Cohort Study data in Berrington A, et al (2005)^{xiv}

(サザンプトン大学のグループの研究から引用)

図6 イングランドにおける18歳未満の妊娠率 1998~2009年
Figure 1: Under-18 conception rate for England: 1998-2009



Source: Office for National Statistics and DfE, 2011
Rate per thousand females aged 15-17
2009 data are provisional

(教育省 Department for Education ホームページより)

に10代の妊娠の発生と相関しているかを調べている⁽⁴⁾。この研究が使った要素は次の5つだ。すなわち、i. 自分の母親が10代で子どもを産んでいる。ii. 父親の社会階層がIVかVである⁽⁵⁾。iii. 行為障害がある。iv. 10歳の時点で公営住宅に住んでいる⁽⁶⁾。v. 10歳の時点で読みの能力が低い。

前ページ図5は結果をまとめたものだが、これらの要素を1つももたない場合に女子が20歳未満で母親になる可能性は1%、1つもっている場合は4%、2つもっている場合には9%、3つもっている場合には15%、4つもっている場合には24%、5つもっている場合には31%と増加する。

男子についても同様だ。これらの要素を1つももたない場合に男子が23歳未満で父親になる可能性は2%、1つもっている場合に4%、2つもっている場合には7%、3つもっている場合に11%、4つもっている場合に17%、5つもっている場合に23%と、これも要素が多く重なれば重なるほど若くして親になる可能性が高くなっている。

3 問題に対応するための総合政策

こうした複合的な要素を背景にしている10代の妊娠問題に有効に対応するには、1つの省庁が対応するのは難しい。イギリス政府が試みたのは、「10代の妊娠戦略」という総合政策の立ち上げだ。いくつ

もの省庁を横断する総合政策である。政府内に新たに「10代の妊娠問題対策部門 Teenage Pregnancy Unit」を設置し、各省庁が行う関連政策を強力に統合する役目を担った。地域レベルには「地域コーディネーター」が置かれ、同様に各種の施策統合にあたった。それぞれ、この統合役割が機能するかどうかを左右するポジションだ。

昨年2010年にこの10年プロジェクトは一段落し、その総括も兼ねた報告書『10代の妊娠戦略 2010年以後』⁽⁷⁾が編まれている。この報告書は、プロジェクトについて、当初目標にした10代の妊娠

率半減を達成することはできなかったものの、10年で18歳未満の妊娠は20%近く減り(図6)、またこの10年で、若者たちが必要なときに避妊の情報と手段を手に入れることがより容易になり、この問題に対する認識も親や専門家の間に広がったとして、一定の効果を上げたとしている。各地で行われた対応の中にも、詳細については残念ながらここでは触れる余裕がないが、ロンドンのハックニーなどかなりの効果を上げたケースも報告されている。

【注】

- (1) Social Exclusion Unit, *Teenage Pregnancy*, Presented to Parliament by the Prime Minister by Command of Her Majesty, June 1999.
- (2) Department for Education and Skills, *Teenage Pregnancy Next Steps, : Guidance for Local Authorities and Primary Care Trusts on Effective Delivery of Local Strategies*, 2006.
- (3) Department for Education and Skills, *Teenage Pregnancy Accelerating the Strategy to 2010*, 2006.
- (4) Ann Berrington, Ian Diamond, Roger Ingham, Jim Stevenson with Riccardo Borgoni, M. Isabel Cobos Hernández and Peter W.F. Smith. 'Consequences of Teenage Parenthood: Pathways which minimise the long term negative impacts of teenage childbearing Final Report', November 2005.
- (5) 社会学で使用されている階層分位。I 専門職等、II 管理、技術職、III N 熟練ホワイトカラー、III M 熟練ブルーカラー、IV 半熟練ブルーカラー、V 非熟練ブルーカラー。
- (6) イギリスで公営住宅に居住するというのは、貧困等の理由で保護政策の対象になっているという意味合いをもつ。
- (7) Department for Children, Schools and Families, Department of Health, *Teenage Pregnancy Strategy : Beyond 2010*, 2010.

同性婚を認めたニューヨーク州

ニューヨーク州が同性カップルの結婚を7月24日から合法化することになりました。人口最大州でのこの決定は、米国ではとても大きなニュースとして報道されています。その理由は3つあります。1つは、これが来年の大統領選挙で国を二分する大きな政治問題として扱われるかもしれないこと。2つ目は、これを機に同性愛者など性的少数者の人権が一気に拡大される流れが生まれるかもしれないこと。そして3つ目は、それに抗する宗教的な反発がとても大きいこと。

アメリカという国は、ヨーロッパから逃れてきた貧しい移民たちが、神さま（への信仰）の助けによって切り拓いてきた国です。西へ西へと根拠地を拓けるたびにまず作ったのは、役所でも病院でもなく教会でした。そこが集会所となり娯楽所となり生活のよりどころとなったのです。つまり人々の生き方の根本には常に聖書が存在してきた。

キリスト教保守派の人たちは、聖書にダメと書いてある同性愛者たちが社会的に認められると、逆に聖書を基にした彼らの世界観が破壊されてしまう。これは精神的な死活問題です。だから激しく反発する。

一方で、同じ聖書でも隣人愛に重きを置く人たちは、そんな精神性を背景に同性婚の支持に回ります。自由を求めて新大陸に渡った人たちの系譜の中には、新しい民主主義の国をつくるという自負もありました。それが同性愛など性的少数者たちの人権に関係するのは、黒人への差別、女性への差別を改革してきた人たちには当然の流れなのです。

この2つの世界観が真っ向からぶつかるのが今回の問題です。

性的少数者について、私はこう思っています。歴史を輪切りにすれば、西洋的かつ現代的な、かつ本質主義的な定義というLGBTの人たちはその時代その時代にだいたい5%くらいしか存在しない少数派です。少

ないということは「常」ではないということで、だから「異・常」だと思われることもあるかもしれない。

でも、その歴史を縦切りにすると、同性愛者の人脈は延々と続いていて途切れることがない。アレキサンダー大王からミケランジェロからレオナルド・ダ・ビンチからチャイコフスキーやバーンスタインや、日本でだって織田信長とか平賀源内とか南方熊楠とか枚挙にいとまがありません。これは歴史を通して「常」に存在する普遍なのだ、と思うのです。

それと何よりも、だれにも迷惑などかけていない性的少数者たちが「愛している人が病気になるでも家族でも親族でもない自分は付き添いもできない」とか「2人で暮らしてきた家を、名義人だった相方が亡くなったために追い出された」とかいう現実直面しているのを目にして、そういう悲惨を正すのが社会の成熟だとも信じています。

ただ、それでも根深く残るのが「でもねえ」「やっぱり自然じゃない」という感覚でしょうね。

それについても私はかなり楽観視しています。米国で最初に同性婚が認められたのは18年前の93年のことです。ハワイ州の最高裁が、同性カップルを結婚制度から排除するのは、法の下での平等をうたう合衆国憲法に違反している、と判断したのです。その後、この決定は住民投票で覆されることになりましたが、当時の同性婚への支持率は全米で25%しかありませんでした。ほとんどの人が同性婚、いや同性愛自体に不安を抱いていた。

でも昨年の世論調査では同性婚への支持が反対を上回る、あるいは拮抗するようになった。同性愛への世論のアレルギーが治ってきたということです。なぜか？ 情報です。多くの情報を得れば、抱いていた同性愛者像が偏見だったことに気づく。時代はそういうふうに変化してきました。そして「やっぱり変に思う」といっている人も、あと10年後には必ず変わっていると私はひそかに思っているのです。

「ありのままのわたしを生きる」ために



第4回

ある記憶

土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のMtFトランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

数学を教えていると、グラフでつまづく生徒がよくいます。おそらく教員と子どもたちの間でグラフの見方に大きな違いがあるのでしょう。なんとかそのギャップを埋めたいと思い、いろいろ工夫をします。

言葉や板書による説明だけではダメな時は、オリジナルの教具をつくります。といってもそんなに複雑なものをつくりません。たいていは針金をペンチで曲げて5分ほどでつくります。この間はちょっと凝った「最大値・最小値理解マシーン」をつくりました。針金をガムテープで黒板に止めた教具は、とてもチープです。でも、そのチープさこそが、子どもたちの記憶に残るために大切なんだろうなあとと思っています。

閑話休題。

わたしの両親はあまり家族旅行に行くタイプではありませんでした。そこで、旅行に行く代わりに、小学生のわたしを「YMCA」に通わせました。

わたしが通っていたのは、「グループ活動」と言われるものでした。毎週土曜日にYMCAの会館に集まり、同じグループのメンバーと遊びます。竹馬づくりをしたり、たこ焼きをつくったり、テント建ての練習をしたり、会館全体を使って鬼ごっこをしたり。グループ活動の最後は、みんなで話しあって次の週の活動内容を決めます。ただそれだけの活動でした。グループには大学生のリーダーがいました。リーダーは特に何をするわけでもなく、みんなと一緒に遊んでくれました。わたしは毎週、土曜日が来るのが楽しみでした。

「早起きサイクリング」という活動もありました。日曜日の早朝、集合場所に集まって、みんなで目的地まで自転車を漕ぎました。目的地に着いたらリーダーがお茶を沸かしてくれました。ただそれだけの活動でした。でも、学校で決められた範囲の外に自転車で行ける唯一のチャンスでした。自分の力で目的地まで行くという経験は、わたしの世界を広げてくれました。

夏には2泊3日のキャンプがありました。キャンプ中には、キャンプファイヤーや水泳、ボートやカヌー

漕ぎ、野外料理など、さまざまなプログラムがありました。でも、一番の楽しみは夜でした。グループのリーダーがミーティングでいなくなった際に、10人ほどのメンバーが、小さなキャビンやテントの中で怪談をしたりお互いの学校の話をしたり。巡回のリーダーに見つかる怒られるので、斥候役をつくることもありました。3日間ずっと一緒に過ごした仲間と別れる最終日は、とてもさびしく感じたものでした。

冬にはスキーキャンプがありました。ここでスキー指導をしてくれるのも大学生のリーダーでした。毎年少しずつ少しずつスキー技術が上達するうちに、いつしかわたしはスキーの虜になりました。

YMCAの活動には、常に大学生のリーダーがいます。グループ活動のリーダーは、決してグループをリード（指導）するわけではありませんでした。でも、リーダーの存在は、とても頼もしいものでした。「早起きサイクリング」では、先導役もリーダーでしたが、最後尾もリーダーが走りました。ある時リーダーの中のリーダー格らしき人が、わたしにこっそり「一番早く走れる人が一番最後を走るんだよ」と教えてくれました。スキーキャンプのリーダーはとてもかっこよく見えました。リーダーはスキーが上達する喜びだけではなく、雪の中で遊ぶ楽しさも教えてくれました。

野外で遊ぶ経験は、わたしに「人間はひとりでも生きていける存在なんだ」ということを教えてくれました。その一方、グループで遊ぶ経験は、「人間はみんな生きていくことで楽しめる存在なんだ」ということも教えてくれました。

そして、その経験の場にはいつもリーダーの存在がありました。いつしかわたしはリーダーという存在にあこがれを感じ、「大学生になったらリーダーになりたい」と思うようになりました。

YMCAはわたしにとっても大きな影響を与えてくれました。しかしそんなYMCAと、後にわたしがトランスをしたことがきっかけで別れてしまわざるを得なくなったことは、皮肉なことだなあと感じます。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

子どもたちにセクシュアリティを知る権利を

本書の監修者・橋本紀子氏は、性教育の各国比較研究を専門とする。勤務する女子栄養大学では、“保健室の先生”となる養護教諭も育成している。「望まない妊娠の結果、高校中退を余儀なくされる女子生徒が出てくるたびに、子どもたちの『知る権利』が奪われていると、現場の先生たちは強く感じるので。性教育は、自分の人生を左右するほど大切な教育なのに、いまの日本ではきちんと行われていないのではないか、と」。

日本では教科として位置づけられていない性教育は、学校によってその実態もバラバラ。受ける機会が保障されていない上、2002年以降、一部の保守派から「性教育バッシング」が起き、小学校で性器の名称や、小・中学校で性交、避妊法を教えると、“過激な性教育”として攻撃されるようになった。

一方、海外では、どのように教えられているのだろうか？ 本書では、アメリカ、オランダ、フィンランド、イギリス、ドイツ、オーストラリア、カナダ、タイ、中国、韓国、日本の11か国の概要を、各々の事情に詳しい研究者が紹介する。国により、キリスト教や儒教、イスラム教徒の移民など保守層の圧力が強かったり、公民権運動、女性や性的少数者の解放運動で変革が起きたり、“エイズ・パニック”や性犯罪増加の対応を迫られたり……国の歴史や文化、宗教などによって、性教育の実態は千差万別。違いが浮き彫りになると同時に、共通の課題も見えてきた。

例えば、オランダは同性婚やマリファナ、売春、尊厳死が合法化されている。情報の透明性や、自己決定を重んじるお国柄。性教育は義務化され、教師を養成する、大学の教育学部のカリキュラムにも性教育が組み込まれている。小学1年生、5歳時から性教育を実



こんなに違う！ 世界の性教育

橋本紀子著
メディアファクトリー新書
777円（税込み）

施する学校もあり、小学校高学年では、バナナにコンドームを被せる実習を行うところも。

「寝た子を起こす」は杞憂で、オランダの10代少女の妊娠率や中絶率は、アメリカよりはるかに低く、日本をも下回る。マリファナの使用率も、他のヨーロッパ諸国より低い。むしろ情報を得ることで行動は慎重になり、自分も相手も大切に意識は高まるようだ。「先進国における子どもの幸せ調査」でオランダは1位、日本は孤独度で1位だったというから、考え込まれる。

多文化主義政策のカナダでは、性教育も、人種や民族、性の多様性を踏まえ“すべての人”の性的人権に配慮しようとしている。その契機の1つとなったのが、1985年、学校の図書館司書のゲイ男性が、男子中学生4人に暴行、殺害されたヘイトクライム事件。迅速な調査、早急な改善が行われたことは、特筆に値する。教育委員会がつくったセクシュアル・マイノリティの生徒のための高校もある。

性教育推進派と反対派がぶつかったイギリスでは、性教育は義務だが、親が授業を退席させる権利を認める苦肉の策が取られた。中国の性教育は「晩婚・晩育」「少生・優生（数少なく優秀な子を産む）」政策が、色濃い。儒教思想の強い韓国では、純潔教育から、科学的性教育への転換を模索中。性犯罪多発を受け、性暴力からいかに身を守るかも重視している。

世界共通の課題は、現実にはセックスに積極的な子どもがいるなかで、いかに子どもたちの現状に合った、心に届く内容を提供できるのか。「10代の望まない妊娠」、「HIVや性器クラミジアなどの性感染症」をどう減らしていくか等。性教育という、価値観が異なる集団間で衝突が起きやすい分野に、各国がつけた落としどころは、参考になる実践の宝庫で読みごたえがある。

（フリーライター・まつばらけい）

8/7 (日)

12:00~17:30

性教育研究会研修会 発達障害児・知的障害児への性教育と男児の性被害

【内容】第1部：講演「発達障害児と知的障害児に対する性教育実践」菊池春樹（神経科クリニックこどもの園）。**第2部：**講演「性被害に遭遇した男性の精神医学的特徴について」松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部診断治療開発研究室長）。

【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 310号室

【問い合わせ先】 参加費／一般 3,000 円、学生 2,000 円。問合せ先／千葉県千葉市中央区蘇我 1-4-105 石澤方英方 性教育研究会
TEL 090-1429-6958 E-mail m.ishzw4@pref.chiba.lg.jp URL <http://seikyokuiku.fc2.rentalservers.com/>

全国性教育研究団体連絡協議会

8月18日 (木) 12:30 ~ 16:30

8月19日 (金) 9:00 ~ 16:30

第41回 全国性教育研究大会

テーマ 「生きる力」を育む性教育を目指して～学校における実践を効果的に進めるために～

内容 **1日目：**開催地報告「北海道性教育研究会の歩みと実践」北海道性教育研究会、基調講演「学校における性に関する指導について」森良一（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課）、記念講演「学校に望まれる健康教育の視点」南砂（読売新聞東京本社）、ほか。
2日目：分科会「小学校低学年における性教育の実践」「小学校高学年における性教育の実践」「中学校における性教育の実践（第2学年）」「中学校における性教育の実践（第2・3学年）」「高等学校における性教育の実践と性意識調査」、課題別講義「性教育の導入と実践の計画」堀内比佐子（全国性教育研究団体連絡協議会）、「性教育における関係機関との連携」三浦康男（全国性教育研究団体連絡協議会）、「情報メディアによる性非行・性犯罪の危険」大和剛彦（市立札幌大通高等学校）、「保健所が行う性教育（学校との連携）」西田令子（手稲保健センター）、「医者が行う性教育（学校との連携）」鈴木伸和（札幌市医師会）、実践発表「日本の妊娠・不妊に関する知識レベルについて」杉本美麗（メルクセローノ（株）コーポレート・コミュニケーション）、「ハイリスク HPV の性行為感染知見によって提起された学校性教育の新課題と指導法」武田敏（千葉大学）、ほか。

会場 ホテルライフオーポート札幌（札幌市中央区南10条西1丁目）

定員・参加費・問い合わせ

参加費／一般 6,000 円、学生 4,000 円、1日参加 3,000 円（学生 2,000 円）。定員／500 名、分科会は定員各 100 名。

主催／全国性教育研究団体連絡協議会、北海道性教育研究会。

協賛／（財）日本性教育協会。

後援／内閣府、文部科学省、厚生労働省、全国公立幼稚園長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国特別支援学校長会、（社）日本PTA全国協議会、（社）全国高等学校PTA連合会、（財）日本学校保健会、（社）日本家族計画協会、（社）日本産婦人科医会、（社）日本看護協会、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道医師会、札幌市医師会、北海道学校保健会、札幌市学校保健会、札幌市看護協会（一部申請中）

問合せ先／〒064-0921 札幌市中央区南21条西5丁目 札幌市立柏中学校内 札幌大会事務局

TEL 011-521-2341 FAX 011-521-2343

9/4 (日)
13:30~17:00

世界性の健康デー (WSHD) 公開フォーラム
文部科学省「大学生の就業力育成支援」事業／関西性教育研修セミナー 2011 夏

「学校のなかの性的マイノリティ

～教育現場における排除と包摂～

【内容】

開会の挨拶 『『世界性の健康デー』について』 東優子 (大阪府立大学人間社会学部)

講演 「若者の性的指向と健康問題：学校保健で見落とされがちな視点について」 日高庸晴 (宝塚大学看護学部)

事例報告&ディスカッション コメンテーター：土肥いつき (京都府立高校)

9月4日は、世界性の健康デー (World Sexual Health Day) です。今年のテーマ「若者の性の健康：権利と責任のわかちあい」(Youth's Sexual Health: Shared Rights and Responsibilities) にあわせ、「学校のなかの性的マイノリティ：教育現場における排除と包摂」と題した公開フォーラムを企画しました。

講師の日高庸晴氏は、厚生労働省エイズ対策研究事業の一環として数多くの研究を実施しておられます。研究結果の一部は『ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート』として刊行しており、当日は、マスコミにも取り上げられた「ゲイ・バイセクシュアル6000人調査 半数がいじめ被害」(朝日新聞2007年9月9日)などの調査結果に基づき、教育・保健医療・福祉・メンタルヘルスの専門家に対するさまざまな提言を行っていただきます。

事例報告のセッションでは、現役教師であり、セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表の土肥いつき氏をコメンテーターに迎え、教育現場でどのような取り組みがなされているかについてご紹介しつつ、参加者のみなさんと活発な意見交換につなげたいと思っています。

【会場】 関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G.ハブスクエア1004室 ※開場／13:00 参加費／無料。
(大阪府大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー10階)

【主催】 世界性の健康学会「世界性の健康デー」実行委員会
大阪府立大学「子育て教育系キャリア・コラボ力育成」
関西性教育研修セミナー実行委員会

【協賛】 財団法人日本性教育協会

【問い合わせ先】

higashi@sw.osakafu-u.ac.jp (ご返事は必ずいたします。ただし携帯メールの場合、こちらからの返事が受信拒否されることがありますので、あらかじめご了承ください。)

9/4 (日)
13:00~16:30

世界性の健康デー (WSHD) 記念イベント@横浜／東京性教育研修セミナー 2011 夏
大学生・専門学校生集まれ！ 性の課外授業

「愛とこれからの人生と性」

～ちゃんと知っておきたい、体のこと オトコとオンナの事情～

【内容】

話題提供&ディスカッション 「携帯メール相談からみた若者の性」 上村茂仁 (かみむらレディースクリニック)

「男の正体・女の錯覚～愛という名の勘違いに気を付けろ」 西海美知代 (銀座ラクーン)

全体ディスカッション

「教えて！先輩 性の楽しみ方」 ファシリテーター：斉藤麻紀子 (Umiのいえ)・早乙女智子 (神奈川県立汐見台病院)、ほか。

【会場】 横浜市社会福祉センターホール (JR桜木町駅から徒歩2分) ※開場／12:30

【定員・参加費・問い合わせ】

参加費／一般2,000円、大学生・専門学校生500円。**定員**／200名 (要事前申込)。**対象**／専門学校生、大学生以上。

主催／世界性の健康デー記念イベント実行委員会。**共催**／性と健康を考える女性専門家の会。**協賛**／財団法人日本性教育協会、ほか。

問合せ先／いのち・こころ・からだ・くらしの学びあいの場～Umiのいえ～ URL <http://umi.lar.jp> E-mail was@umi.lar.jp
以下の項目をご記入のうえ、上記メールアドレスにお申し込みください。①お名前、②学生の方は学年、③お勤めの方はご職業 (ご専門)、④年齢 (20代、30代など)、⑤コメント (いただいたコメントは匿名で事前にホームページに掲載または当日の資料に使用させていただく場合がございます)。